

小中一貫教育目標『志を持ち たくましく生きる人』
学校教育目標『夢に向かい 心豊かに 自ら学ぶ』

沼津市立愛鷹中学校



回覧



学校だより NO. 9

令和2年9月23日

第37回 鷹根祭

9月17日(木)・18日(金)に、第37回鷹根祭を開催しました。

鷹根祭は、昭和も終わりに近づいた頃、当時の生徒会が中心となり、学校祭を盛り上げることを願い始めました。それ以来、「演技者から裏方まで一人一人が主役」ということが伝統となり、生徒に引き継がれてきました。

今年も、新型コロナウイルスの影響で制約が多い中、生徒会ができることを考え、愛中生らしさを示す素晴らしい企画を立てました。『三密避けても想いは密です!今こそ示せ!愛中生の底力!』のスローガンのもと、引き継がれてきた伝統は、準備の段階から本番の至るところで見られました。思いやる心で力を合わせ、自他を認め励まし、責任を持って役割を果たす姿がとても輝いていました。

保護者の皆様、地域の皆様、生徒の鷹根祭に向けた活動を温かく支えていただき、感謝の念に耐えません。また、企画当初に生徒が打ち出した「無観客により安全に開催したい」という願いにご協力を賜り、誠にありがとうございました。



【創作部による横断幕】

文化の部

今までの文化の部では、吹奏楽部の演奏が披露され、全校生徒が曲に合わせ、歌ったり踊ったりと一体感があるステージになっていましたが、今年は13日(日)に収録した映像をクラス毎に放映する形を取りました。

吹奏楽部は、夏の吹奏楽コンクールが中止となり、運動部のようにフレンドリーマッチのような代替のものはありませんでした。この鷹根祭の収録に向け、3年生から1年生までがまとめ、3年生が引退する最後の活動に、精一杯取り組みました。

モニターから流れるアクティブな演奏に、教室は明るく楽しい雰囲気に包まれ、生徒から大きな拍手がわき上がりました。

1学期から練習してきた合唱は、各クラスの協力と工夫が強く感じられる発表となりました。自分たちが表現したい曲想を何度も練習し、味わいのある美しいものにしていく過程が大変立派でした。学年をまたぎ合唱を聴き合う交流では、上級生が全力を出す姿勢を下級生に伝えてくれたように思います。



体育の部

プログラムは、生徒会が考えた紅白玉入れと各学年の全員リレーを軸に組み立てられました。

9月に入ってからの酷暑、また突然の雨などにより、思うように準備は進みませんでした。先を読みながら時間を効果的に使い、できることをやろうとする姿が光っていました。

全員リレーは各クラスがバトンパスにこだわり、タイムに目標を持って練習していました。体育の部本番では、息を飲む展開に、グラウンドには大きな声援が響き渡りました。

運営を支える係活動は、総練習の時にWBGTが31を超えたため十分なシミュレーションにはなりませんでした。しかし、各個人が情報を結びつけながら自分の動きを頭で組み立て、本番で的確に役割を果たすこととなりました。自ら考え、判断し、自分から動く理想の姿を生徒が体現し、大変うれしく思いました。

